

薬価制度の抜本改革へ 年明けから議論始まる

薬価制度の抜本改革に向けた議論が早くも年明けからスタートした。昨年末にまとめられた政府の基本方針に基づき、厚生労働相の諮問機関である中央社会保険医療協議会で検討が始まった。

これまでに抗癌剤「オプジーボ」問題で明らかになった効能追加等に伴う市場拡大に対応するため、収載時に年4回薬価を見直す対象薬の範囲や引き下げ方法、導入時期や外国平均価格調整、毎年改定の実施を受けて、中間年の薬価調査のあり方について1回目の議論を済ませている。

具体的な議論で既に進展があったのは、乾癬治療薬「トルツ」が類薬に比べて3倍以上の薬価となった問題を受け、見直しを求める意見が噴出していた外国平均価格調整ルール。価格の参照国となっている米、英、独、仏の4カ国のうち、医療保険制度が違い、自由薬価のために高い薬価が付きやすい米国を参照国の

1つとしている現状に問題意識が示され、医師など診療側、保険者など支払側の委員は共に「米国を除外すべき」との意見で一致した。

外国平均価格調整ルールは、算定

薬価が外国価格と乖離の大きい場合に調整を行うもの。米、英、独、仏の平均価格の1.5倍を上回る場合は引き下げ、外国平均価格の0.75倍を下回る場合には2倍を上限に引き上げるというもの。

昨年8月にトルツの薬価が調整後、類薬の3倍以上となったことから問題点が浮上した。さらにその後、企業が収載希望を取り下げ、為替レ

ートの変動を見て再申請したため、中医協の委員から疑問の声が上がっていた。

今後、基本方針に示された事項について順番に議論を進め、5月ごろと10月ごろに製薬業界から意見聴取を行い、年末には骨子をまとめる予定で抜本改革を進めていくことになっている。

医薬政策管理の人材養成へ 大学院に新研究分野開設

城西大が4月から

城西大学は、大学院薬学研究科に修士課程の「医薬政策管理分野」を4月から新設する。医薬関連の政策とマネジメント、経営を理解し、地域の保険薬局やドラッグストアで活躍できる薬剤師を養成するのが狙い。国や地方の制度に関わる行政職も含め、医薬政策とマネジメント・経営にまで精通した専門的な人材を輩出していく。初年度は、チェーン薬局やドラ

ッグストアなどで働く社会人を含め、5人程度の学生を受け入れる予定。

修了後に取得できる修士(薬科学)の学位は、海外で広く知られているMHA(医療管理修士)の「城西版」として位置づけ、将来的には養成した人材による薬学発のシンクタンク設立につなげる構想だ。

国が推し進める健康サポート薬局、かかりつけ薬剤師の政策を背景に、保険薬局やドラッグストアで働

く薬剤師が住民のニーズや期待を理解し、地域で活躍できるようになるためには、学生の時から医薬政策やマネジメント、経営の知識を身につけておくことが必要と判断し、今回の分野開設に至った。

医薬政策管理分野のカリキュラムは、必修科目として総合薬科学演習、先端薬科学演習、修士論文研究を履修し、選択科目では医薬政策管理特論、ヘルスケア産業経営管理特論などを学ぶ。

講座は4月から、教員7人体制で修士課程(2年)のカリキュラムを開始する。国や地方の行政職や政策管理に詳しい薬局、ドラッグストアの薬剤師の輩出を目指すという。

みなさんこんにちは。今回は基礎研究と臨床研究の違いについて簡単に紹介し、臨床現場で重視すべき情報は、臨床研究の結果、いわゆるエビデンス情報であるということをお話ししました。今回は臨床研究で評価される薬の効果の指標について考えていきます。

薬が患者さんにもたらす影響を考える際には、患者さんが薬を飲んで幸せになれるかどうか、という観点を見失わないことが大切です。治療行為による臨床上の成り行きを「アウトカム」と呼びますが、薬を服用することで患者さんが幸せになれるかどうかが一番重要なアウトカムなのかもしれません。とはいえ、幸福の度合いは人それぞれの主観的な感情であり、他人の物差しで客観的に評価できるものではありません。では僕たちは薬の効果の指標として何を重視すればよいのでしょうか。



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島 周一

これから『薬』の話をしよう

真のアウトカムを想像せよ!

繰り返しますが、薬物治療は少なくとも患者さんに幸せをもたらすものでなくてはなりません。耐え難い疼痛や、日常生活に支障を来すような不快な身体症状を改善すること。将来起こり得る重篤な合併症や死亡を先送りして、健康でいられる時間を少しでも長くすること。こうした効果が得られなければ、薬を服用する意義は大きくないでしょう。

幸福度の客観的評価は困難ですが、合併症や死亡はそれらの発症率として、また疼痛や身体症状はスコア化(点数化)して定量的に評価することが可能です。このように患者さん自身の生命や生活に直結するアウトカムを「真のアウトカム」と呼びます。一方で血糖値やコレステロール値、炎症メディエーター等の変化は、

真のアウトカムに対する影響を予測する指標であり、「代用のアウトカム」と呼びます。

もちろん患者さんにとっての真のアウトカムは必ずしも長生きすることではないかもしれませんが、血糖値が下がることと安心して生きていけるというのもあるでしょう。ただ少なくとも「真」と「代用」という2つのアウトカムをしっかりと意識して、薬の効果を考えていく必要があります。なぜなら、代用のアウトカムの改善が必ずしも真のアウトカムを改善するわけではないという事実は枚挙にいとまがないからです。代用のアウトカムの改善のみに注目することは、薬の効果の大切な側面を見失っていると言っても過言ではないでしょう。

首都圏を中心に店舗展開中!



miki pharmacy
ミキ薬局

会社説明会開催中!

ミキ薬局



「食と栄養」の情報発信もおこなう調剤薬局

「これからの薬剤師のはたらきかた」

株式会社メディカルファーマシー

本社 〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011

人材開発部 saiyou@miki.ne.jp

ホームページ <http://miki-ph.jp>

東京都 : 20店舗 神奈川県 : 5店舗
埼玉・千葉・山梨・栃木県 : 各1店舗

